

2020 年度



Globe 実践をふり返って

東川第一小学校

今年度の重点

1 カリキュラムの見直し

- (1) Globe 授業にかかわる指導方法、評価方法の充実
- (2) Communication 要素の評価 (CAN-DO リスト) の充実

2 国際教育の接続について

- (1) Local/Global 要素の系統性の確立
- (2) 教科横断的指導の充実

上記の重点を受けて、本校では校内推進プランを進めてきた。

3 研究の概要

東川町全体の研究課題・主題・仮

自国の文化や伝統への理解を深めるとともに、
異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていく子ども

○研究開発課題

文化や価値観などの異なる人々と、よりよい人間関係を構築できる資質・能力を育成するための、初等中等教育段階におけるグローバル化に対応した教育環境づくりを柱とした教育課程の研究開発

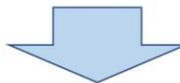
【研究主題】

「ふるさと東川を愛する心情を高め、人間尊重の精神を基調とする国際性を養い
国際社会に通用するコミュニケーション能力の育成」

【研究仮説】

国際教育を中核とした新教科『Globe (グローブ)』を創設し、指導内容、指導方法、評価方法を体系的に構築することで、自国や地域の歴史や文化、伝統に対する理解を深めるとともに、異文化を理解し、異なる文化や習慣をもつ人々と共に生きていく(多文化共生)のための資質・能力を育むことができる。

東川町の取組を受けて



本校では・・・

上記の共通課題・主題・仮説を理念とし、町内の幼稚園、小学校、中学校、高等学校と連携しながら、更に本校独自の研究仮説を設定し、研究を進めていくこととする。

【本校の研究仮説】

新教科『Globe』において、「少人数指導」「複式同単元同内容異程度指導」などの本校の特色を生かした「Globe カリキュラム」を工夫して作成することで、自国の文化や伝統への理解を深めるとともに、異なる習慣や文化をもった人々と共に生きていく資質・能力を育むことができる。

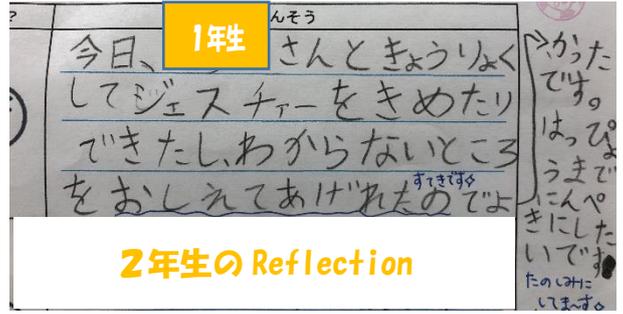
1. Globe 授業にかかわって

【同内容異程度】

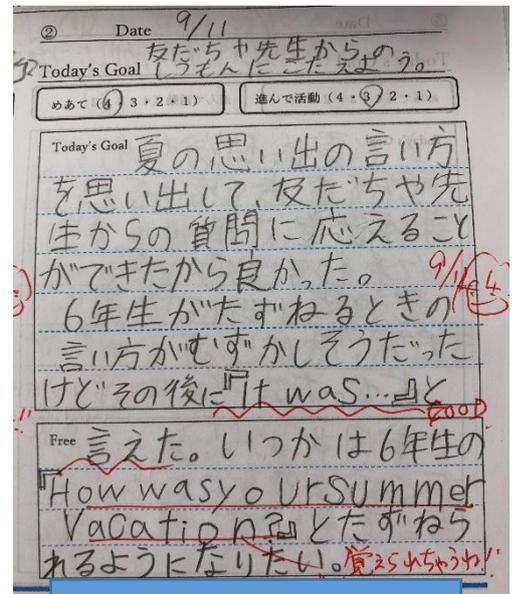
本校では、Globe の授業では、多くの人と関わる中で、目指す資質・能力が育つと考え、同内容異程度指導を行っている。同じ教室で2学年が同じ内容を学習するので、学習の目的に応じて、異学年混合のチームを組んだり、異程度の目標を設定して活動をしたりした。異学年のチームでの学習では、上の学年が下の学年をサポートする姿が多く見られた。

昨年度の研究の反省で、同内容異程度指導での目標設定をしっかりとすべきだということがあげられ、今年度は教師側で異程度の目標をおさえるだけでなく、子どもたちにもわかりやすくはっきり提示するよう改善した。

一斉研修で実践した5・6年の「Summer vacation in the world」の授業では、単元ゴールは同じであるが、そこに至る過程の授業では目標を学年ごとに設定し、毎時間子どもたちに提示し、はっきりとした違いを確認してから Practice に入った。そうすることで自分が何をできるようになればよいのかが明確になり、Practice や Activity でも自分の目標に向かって努力する姿がみられた。そして、子どもたちがそれぞれ目標を理解しているので、活動の中での指示も端的にすることができた。さらに、下の学年が上の学年の目標に達したいと努力する児童もいて、複式のよさを感じることができた。



2年生の Reflection



5年生 Reflection

3. 指導計画 (11時間)

時	5年	6年	要素
1	ALT の夏休みの日記を聞いて内容を理解することができる。		【L・学】
2	夏がどうだったか伝える言い方を知る。	夏がどうだったか尋ねたり答えたりしよう。	【C・知】
3	夏の思い出がどうだったか伝える言い方に慣れる。		【C・知】
4	夏の思い出を聞き取ることができる。	カードを見て夏の思い出を伝えることができる。	【C・知】
5	自分の夏に行った場所、したこと、感想を考えることができる。		【L・思】
6	友だちからの質問に答えることができる。	友だちに夏の思い出についてたずねたり答えたりすることができる。	【C・知】
7-8	夏の思い出を伝える準備をすることができる。		【L・思】
9	夏の思い出を、相手に伝える工夫を入れて、友達に伝えることができる。		【C・思】
10	ALT や CIR の先生に夏の思い出を発表したり、世界の夏について知ろうとしたりする。		【G・学】
11	世界の夏について教えてもらったことを交流する。		【L・学】



5年は指されたものを答える



6年は指さして尋ねる

【指導者の役割分担】

HRT Home Room Teacher	主な流れを主導，児童と活動，指導案作成，評価
JTE Japanese Teacher of Education	細かな活動を主導，指導案・教材作成，ALTとの打合せ
ALT (CIR) Assistant Language Teacher	発音，デモンストレーション，児童と活動，支援，
STE Support Teacher of Education	支援，デモンストレーション，児童と活動

本校では、4人でGlobeの授業を進めるようにしている。昨年度まではSTEは活動のサポートやデモンストレーション、交流に加わることで支援としていた。今年度は、サポートが必要な児童にあらかじめどんな資料があると学習しやすいか、などを授業の前に指導者で話し合い、Ipadなどの視覚的資料を有効活用して学習のサポートをすることができた。

例・テレビにうつるPicture cardが席から見るとわかりづらい。

⇒Ipadにあらかじめ同じPicture cardを用意し、近くで見ながら学習できるようにする。

・黒板の見本を見ても、五線のどこに文字を書けば良いかわからない。

⇒Ipadの五線ページに教師がペンでお手本を書き、書き写す。

・ゲストと交流したことを素早くメモできない。

⇒Ipad音声メモで自分の残しておきたい情報を声で録音して記録する。

・ゲストと交流したいときに使える会話文を忘れてしまう。

⇒コミュニケーションカードを使ってヒントを見ながら会話を楽しめるようにする。

以上のようなサポートを指導者での打ち合わせ後、STEが準備をする役割分担で授業をすることができた。

Communication card



【English ミニ劇場】

授業の中でデモンストレーションを行うときには、指導者が事前に役割分担、シミュレーションなどを行い、リアルな設定で臨場感あふれる劇を子どもたちに見せる。单元によっては、子どもたちに「いきなりミニ劇場」を実演させ、必要な英語表現に気付かせたり、自ら学習計画を立てさせたりすることにも挑戦させている。子どもたちが楽しく学習を進めたり、めあてをしっかりと把握したりすることをねらいとして、適宜「English ミニ劇場」授業に取り入れている。

特に低学年の単元の導入場面では、劇を見せることでこ



1・2年「くだものやさんでお買い物」導入
フルーツケーキを買ったのにフルーツがないよー！
英語でフルーツを買えるようになろう！

2. 国際教育の接続について

【ゲストとの関わり】

今年度はコロナウイルス感染拡大予防で、今まで通りに交流したり小規模校3校合同で交流したりなどできなかったものが多かったが、交流促進課やJETコーディネーターの力によって外国の方と話したり一緒に遊んだりする機会を設けることができた。主に単元のGOALである「Global」の部分で来ていただき、交流をしてもらっている。しかし、Localの部分が薄いままの交流になってしまっているため、東川・日本のことを学習する時間を確保してから世界へつながる交流ができるとよりよいと感じる。



1・2年 好きなものを紹介しよう
ゲストに好きなものを入れて自己紹介。保護者も一緒に色々な国の遊びを体験しました。



3・4年 世界の数の数え方を
ゲストに教わり、一緒に指でかぞえたり世界のじゃんけんをしたりしました。



5・6年 うまいものをひらいて
ゲストにペアで調べた県について発表&販売!

【Globe ボード】

他の学年がどのような学習をしているのか、誰とどのような交流をしているのかがわかるように GlobeNews として掲示している。児童のゲストとの交流の様子や、ゲストが見せてくれたものの写真を掲示するなどし、「早く勉強したい!」「次にこの方がきたら質問してみたい!」と学習や交流の意欲につながるよう、随時更新している。高学年が低学年の見つけた秋を英語で言えるか試してみたり、言えない表現はALTに「How do you say?」で聞いてみたりする姿がみられる。今後は、授業で扱えない部分の国際理解教育として、世界のイベントに合わせて掲示を変え、ALTの国でのイベントの様子などを教えてもらい、掲示していきたい。(ALTの国のクリスマスなど・・・)



3. 今年度の成果と課題

【成果】

- 同内容異程度指導において、学年ごとの目標をはっきりと提示することで、子どもたちの意欲が高まっていた。
- サポートが必要な児童への資料などを事前に準備することができ、安心して学習や交流にのぞめていた。
- Globe の授業における指導者の役割分担が明確にできた。
- Reflection シートの書き方について、書く時間を確保したり、友だちの書いたものを聞く時間を確保したりすることで、しっかりと自分の学習を振り返ることができるようになってきた。

【課題】

- 同内容異程度指導において、下の学年も上の学年の目標を全員が達成する授業があった。児童の実態に目標があっていない可能性があるため、カリキュラムや単元の目標設定の見直しが必要。
- Local の指導が少なくなってしまう、自分たちで日本や東川についてじっくり考える・・・の時間を確保できていない。
- コロナの関係もあり、地域人材をあまり活用できなかった。交流促進課の CIR に多く来ていただいたが、地域の東川のことをよく知る方や高齢の方などとの交流ができなかった。コロナ対策をしながらでも地域とのつながりを感じられる指導を考えていきたい。(リモート・紙面でのやりとり)
- 「相手によく伝わる工夫」「相手に配慮して」が全学年共通になっており、高学年ではもう少しレベルの高い交流をすることができるのではないかという意見があった。
- New horizon の教科書の Writing 指導の時間をうまく確保できなかった。Communication の時間を多くとりがちになっていたため、単元の中で軽重をつけながら Writing を含め教科書の内容を指導できるよう授業プランの改善が必要。